

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆりいか（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	令和7年4月16日 ～ 令和7年4月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の子ども達に合わせたステップで個別療育を行っている。	保護者との引き継ぎや会話から療育ニーズを汲み取れるよう努めている。 子ども達に楽しんでいただけるよう、勉強ではなく遊びを意識して療育設定を行なっている。	療育目的・内容が担当のみでの把握ではなく、全体感を持って療育を行えるようミーティングを行い共有する時間を作っている。
2	共有・運動・個別療育・個人ワーク・静養室など、目的に合わせ各スペースを活用している。	静かな遊び・動きのある遊びなど一人一人の子ども達によって楽しめる活動が異なる場合、各スペースへ誘導している。	各スペースに視覚的構造化を取り入れている。必要であれば、パーテーションを使いブースを作っている。
3	1時間の個別療育の後、1時間の3～4名までの小集団活動に取り組んでいる。	個別の療育後、小集団でお友達と関わる練習ができるカリキュラムを設定している。 小集団活動では、公園遊び・クッキング・お出かけ・お買い物・工作など様々な活動を設定しており、楽しく安心して過ごせるよう、子ども1人対スタッフ1名で活動に取り組んでいる。	保護者に活動をイメージしていただきやすいよう、前月の中旬に取り組み内容の周知を行っている。 活動の記録など、その日にHUGを使い保護者へ共有している。 Instagramから活動内容をアップロードしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング（※5）等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	引き継ぎ時にスタッフからご家族に対しご様子や助言等行っていますが、専門職など専門的な検知からの助言はできていない。 講師とのつながりも少ないので、研修会も行えていない。	・専門職の常勤採用を図る ・外部講師事業所とのコネクション
2	地域との繋がりが少ない。	市内の障がい児童通所事業所とは関わり連携している。 共催でイベントも実施しているが、放課後児童クラブや児童館との交流がない。	・障がい児童通所事業所に限らず、守口の障がい福祉事業とのつながりを増やし、地域の方からの福祉・福祉事業所の認知を広げる。 ・守口市障がい児通所事業所連絡会への参画。